

授 業 科 目	特別学修(実用英検：１級)		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・２単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学科１～５年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	Listening Comprehension、Reading Comprehension、Communicative Competence		
関 連 科 目	英語ⅠＡ・Ｂ、英語ⅡＡ・Ｂ、英文法、英語ⅢＡ・Ｂ、英語ⅣＡ・Ｂ、英語ⅤＡ・Ｂ、 英語演習ⅠＡ・Ｂ、英会話ⅠＡ・Ｂ、英語演習Ⅱ、英会話Ⅱ、 特別学修(実用英検：準２級)・(実用英検：２級)・(実用英検：準１級)		
担 当 教 員	岩崎洋一		
連絡先(オフィス・アワー)	Microsoft Teamsにより連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。		
教 科 書	『英検１級総合対策教本 改訂版』旺文社、2016年、2,750円(税込)		
補 助 教 科 書 等	『2022年度版 英検１級 過去６回全問題集』旺文社、2022年、2,970円(税込)		
参 考 図 書	実用英検１級に関連する書籍やweb教材など		
プ ロ グ ラ ム 目 標	(C-3)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・「読む」「書く」「聞く」「話す」の４技能を、基礎知識から運用能力まで総合的に身につけ、広く社会生活に必要な英語を十分に理解し、自分の意思を表現できることを目指す。実用英検を受験し、１級の合格が具体的な目標となる。		実用英検１級に合格した者について、評定「Ａ」(評点90点)を認定する(100%)	
履 修 上 の 注 意	学生各自が事前に実用英検１級に向けた学習を行い、受験に備えること。単語・熟語力を増強することを常に怠らないこと。文法についても、参考書等を用い、深く理解・納得すること。特にリスニング力増強のために、マルチメディア教材等を積極的に活用すること。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 語彙、熟語、文法力 ・ 読解力 ・ 作文力 ・ 聴解力 ・ 会話能力		・ 短文の空所語句を補充する練習を行い、正しい語彙の意味、熟語、文法を身につける。 ・ 長文を読み、文中の空所に語句を補充する練習、文を補充する練習、内容が一致するものを選ぶ練習を行い、読解力を身につける。 ・ 指定されたトピックについて英作文を書く練習を行い、作文力を身につける。 ・ 会話を聞きその内容と一致するものを選ぶ練習、英文を聞きその内容と一致するものを選ぶ練習を行い、聴解力を身につける。 ・ あるトピックについてスピーチを行い、それに対する質問に答える練習を行い、会話能力を身につける。	
注１ 各自が計画的に学習を進めていくことが重要である(質問は随時受け付ける)。 注２ 合格した際は、直ちに合格証明書の原本を英語科に提出すること。なお、当該年度内に単位認定するためには２月上旬までに合格証明書の原本を提出できるものとする。それ以降については、翌年度単位認定を行う。			
評 価 方 法	実用英検を受験し、１級に合格した者に対して単位の認定を行う。なお、評点については90点とする。		

授 業 科 目	特別学修(実用英検：準1級)		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学科1～5年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	Listening Comprehension、Reading Comprehension、Communicative Competence		
関 連 科 目	英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英文法、英語ⅢA・B、英語ⅣA・B、英語ⅤA・B、 英語演習ⅠA・B、英会話ⅠA・B、英語演習Ⅱ、英会話Ⅱ、 特別学修(実用英検：準2級)・(実用英検：2級)		
担 当 教 員	岩崎洋一		
連絡先(オフィス・アワー)	Microsoft Teamsにより連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。		
教 科 書	『英検準1級総合対策教本 改訂版』旺文社、2016年、2,310円(税込)		
補 助 教 科 書 等	『2022年度版 英検準1級 過去6回全問題集』旺文社、2022年、2,310円(税込)		
参 考 図 書	実用英検準1級に関連する書籍やweb教材など		
プログラム目標	(C-3)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を、基礎知識から運用能力まで総合的に身につけ、日常生活や社会生活に必要な英語を理解し、口頭で表現できることを目指す。実用英検を受験し、準1級の合格が具体的な目標となる。		実用英検準1級に合格した者について、評定「A」(評点90点)を認定する(100%)	
履 修 上 の 注 意	学生各自が事前に実用英検準1級に向けた学習を行い、受験に備えること。単語・熟語力を増強することを常に怠らないこと。文法についても、参考書等を用い、深く理解・納得すること。特にリスニング力増強のために、マルチメディア教材等を積極的に活用すること。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 語彙、熟語、文法力 ・ 読解力 ・ 作文力 ・ 聴解力 ・ 会話能力		・ 短文の空所語句を補充する練習を行い、正しい語彙の意味、熟語、文法を身につける。 ・ 長文を読み、文中の空所に語句を補充する練習、文を補充する練習、内容が一致するものを選ぶ練習を行い、読解力を身につける。 ・ 指定されたトピックについて英作文を書く練習を行い、作文力を身につける。 ・ 会話を聞きその内容と一致するものを選ぶ練習、英文を聞きその内容と一致するものを選ぶ練習を行い、聴解力を身につける。 ・ 4コマのイラストを見て説明する練習、イラストに関する質問に答える練習を行い、会話能力を身につける。	
注1 各自が計画的に学習を進めていくことが重要である(質問は随時受け付ける)。 注2 英検(従来型)と英検S-CBTのいずれも単位認定の対象となるが、英検S-CBTの受験を推奨する。 注3 合格した際は、直ちに合格証明書の原本を英語科に提出すること。なお、当該年度内に単位認定するためには2月上旬までに合格証明書の原本を提出できるものとする。それ以降については、翌年度単位認定を行う。			
評 価 方 法	実用英検を受験し、準1級に合格した者に対して単位の認定を行う。なお、評点については90点とする。		

授 業 科 目	特別学修(実用英検：2級)		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学科1～5年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	Listening Comprehension、Reading Comprehension、Communicative Competence		
関 連 科 目	英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英文法、英語ⅢA・B、英語ⅣA・B、英語ⅤA・B 英語演習ⅠA・B、英会話ⅠA・B、英語演習Ⅱ、英会話Ⅱ、特別学修(実用英検：準2級)		
担 当 教 員	岩崎洋一		
連絡先(オフィス・アワー)	Microsoft Teamsにより連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。		
教 科 書	『英検2級総合対策教本 改訂版』旺文社、2016年、1,760円(税込)		
補 助 教 科 書 等	『2022年度版 英検2級 過去6回全問題集』旺文社、2022年、1,760円(税込)		
参 考 図 書	実用英検2級に関連する書籍やweb教材など		
プログラム目標	(C-3)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を、基礎知識から運用能力まで総合的に身につけ、日常生活や職場に必要な英語を理解し、口頭で表現できることを目指す。実用英検を受験し、2級の合格が具体的な目標となる。		実用英検2級に合格した者について、評定「A」(評点90点)を認定する(100%)	
履 修 上 の 注 意	学生各自が事前に実用英検2級に向けた学習を行い、受験に備えること。単語・熟語力を増強することを常に怠らないこと。文法についても、参考書等を用い、深く理解・納得すること。特にリスニング力増強のために、マルチメディア教材等を積極的に活用すること。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 語彙、熟語、文法力 ・ 読解力 ・ 作文力 ・ 聴解力 ・ 会話能力		・ 短文の空所語句を補充する練習を行い、正しい語彙の意味、熟語、文法を身につける。 ・ 長文を読み、文中の空所に語句を補充する練習、文を補充する練習、内容が一致するものを選ぶ練習を行い、読解力を身につける。 ・ 指定されたトピックについて英作文を書く練習を行い、作文力を身につける。 ・ 会話を聞きその内容と一致するものを選ぶ練習、英文を聞きその内容と一致するものを選ぶ練習を行い、聴解力を身につける。 ・ 日常会話の練習、音読の練習、英文やイラストを見てそれに関する質問に答える練習を行い、会話能力を身につける。	
注1 各自が計画的に学習を進めていくことが重要である(質問は随時受け付ける)。 注2 実用英検は本校では実施しないため、各自が本会場等で受験することとなる。 注3 英検(従来型)と英検S-CBTのいずれも単位認定の対象となるが、英検S-CBTの受験を推奨する。 注4 合格した際は、直ちに合格証明書の原本を英語科に提出すること。なお、当該年度内に単位認定するためには2月上旬までに合格証明書の原本を提出できるものとする。それ以降については、翌年度単位認定を行う。			
評 価 方 法	実用英検を受験し、2級に合格した者に対して単位の認定を行う。なお、評点については90点とする。		

授 業 科 目	特別学修(実用英検：準2級)		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学科1～5年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	Listening Comprehension、Reading Comprehension、Communicative Competence		
関 連 科 目	英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英文法、英語ⅢA・B、英語ⅣA・B、英語ⅤA・B 英語演習ⅠA・B、英会話ⅠA・B、英語演習Ⅱ、英会話Ⅱ		
担 当 教 員	岩崎洋一		
連絡先(オフィス・アワー)	Microsoft Teamsにより連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。		
教 科 書	『英検準2級総合対策教本 改訂版』旺文社、2017年、1,650円(税込)		
補 助 教 科 書 等	『2022年度版 英検準2級 過去6回全問題集』旺文社、2022年、1,650円(税込)		
参 考 図 書	実用英検準2級に関連する書籍やweb教材など		
プログラム目標	(C-3)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を、基礎知識から運用能力まで総合的に身につけ、日常生活に必要な平易な英語を理解し、口頭で表現できることを目指す。実用英検を受験し、準2級の合格が具体的な目標となる。		実用英検準2級に合格した者について、評定「A」(評点90点)を認定する(100%)	
履 修 上 の 注 意	学生各自が事前に実用英検準2級に向けた学習を行い、受験に備えること。単語・熟語力を増強することを常に怠らないこと。文法についても、参考書等を用い、深く理解・納得すること。特にリスニング力増強のために、マルチメディア教材等を積極的に活用すること。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 語彙、熟語、文法力 ・ 読解力 ・ 作文力 ・ 聴解力 ・ 会話能力		・ 短文の空所語句を補充する練習を行い、正しい語彙の意味、熟語、文法を身につける。 ・ 長文や会話文を読み、文中の空所に語句を補充する練習、文を補充する練習、内容が一致するものを選ぶ練習を行い、読解力を身につける。 ・ 質問に対する回答を英文で書く練習を行い、作文力を身につける。 ・ 会話を聞きその内容と一致するものを選ぶ練習、英文を聞きその内容と一致するものを選ぶ練習を行い、聴解力を身につける。 ・ 日常会話の練習、音読の練習、英文やイラストを見てそれに関する質問に答える練習を行い、会話能力を身につける。	
注1 各自が計画的に学習を進めていくことが重要である(質問は随時受け付ける)。 注2 実用英検は本校では実施しないため、各自が本会場等で受験することとなる。 注3 英検(従来型)と英検S-CBTのいずれも単位認定の対象となるが、英検S-CBTの受験を推奨する。 注4 合格した際は、直ちに合格証明書の原本を英語科に提出すること。なお、当該年度内に単位認定するためには2月上旬までに合格証明書の原本を提出できるものとする。それ以降については、翌年度単位認定を行う。			
評 価 方 法	実用英検を受験し、準2級に合格した者に対して単位の認定を行う。なお、評点については90点とする。		

授 業 科 目	特別学修(技術英検：プロフェッショナル)		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学科1～5年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	Technical Communication、Technical Terms、Reading Comprehension		
関 連 科 目	英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英文法、英語ⅢA・B、英語ⅣA・B、英語ⅤA・B 英語演習ⅠA・B、英会話ⅠA・B、英語演習Ⅱ、英会話Ⅱ、特別学修（技術英検：準プロフェッショナル～3級）		
担 当 教 員	小川祐輔		
連絡先(オフィス・アワー)	Microsoft Teams により連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。		
教 科 書	・過去問題（コンビニエンスストアのマルチコピー機より購入可） ・日本技術英語協会ウェブサイト上のサンプル問題、プレテスト問題（プロフェッショナルおよび準プロフェッショナルの試験については、同一の問題を使用し、得点率に応じて判定をする）		
補 助 教 科 書 等	『COCET 2600』理工系学生のための必修英単語 2600 成美堂、2012 年、1870 円（税込）		
参 考 図 書	技術英検に関連する書籍など		
プログラム目標	(C-3)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
科学・技術分野の英語文書を読みこなし、かつ正しく、明確に、簡潔に書くことができる。文書の形式は種類（マニュアル、仕様書、論文等）に応じて異なることを理解しており、正しく使い分けることができる。具体的には、実務で科学・技術分野の英語文書に携わり、技術英語全般の知識を有する者を対象とした技術英検プロフェッショナルを受験し、合格することが目標となる。		技術英検プロフェッショナルに合格した者について、評定「A」（評点90点）を認定する(100%)	
履 修 上 の 注 意	学生各自が事前に教科書（補助教科書等）で学習を行い、教員が個別の質問に答える形式を取る。専門用語の使用頻度が高いのみならず、実務で科学・技術分野の英語文書に携わる者を対象にした試験である。そのため、技術英検準プロフェッショナル以上の実力を備えていることが前提になる。参考書等を用い、様々な形式の文書を深く理解・納得をし、演習回数を重ねることが重要である。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 英語長文（800words 前後）の英文要約演習 ・ 和文（200～300 文字）英訳演習 ・ 冗長和文（500 文字）の英文要約演習 ・ テクニカルライティングの考え方 ・ 冗長英文のリライト演習		・ 技術英語に関する英語の長文を読み、指定された語数で英語に要約する演習を行う。 ・ 工業技術に関する日本語の文章を適切に英訳する演習を行う。 ・ 工業技術に関する日本語の文章を適切に要約し、さらにそれを指定された語数で英訳する演習を行う。 ・ 英文を構成するパラグラフの論理的思考の整理についての演習を行う。 ・ 不完全な情報の英語および日本語の文章を適切な形にして、正確な情報を伝える英文を構成する演習を行う。	
注1	各自が計画的に学習を進めていくことが重要である。（質問は随時受け付ける）		
注2	技術英検プロフェッショナルは、公開会場で受験をすることになる。（受験申込も各自で行うこと）		
注3	公開会場で受験をして合格した際は、直ちに合格証明書の原本を英語科に提出すること。なお、当該年度内に単位認定するためには、2月上旬までに合格証明書の原本を提出できるものとする。それ以降については、翌年度単位認定を行う。		
評 価 方 法	技術英検を受験し、プロフェッショナルに合格した者に対して単位の認定を行う。なお、評点については90点とする。		

授 業 科 目	特別学修(技術英検：準プロフェッショナル)		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学科1～5年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	Technical Communication、Technical Terms、Reading Comprehension		
関 連 科 目	英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英文法、英語ⅢA・B、英語ⅣA・B、英語ⅤA・B 英語演習ⅠA・B、英会話ⅠA・B、英語演習Ⅱ、英会話Ⅱ、特別学修（技術英検：1～3級）		
担 当 教 員	小川祐輔		
連絡先(オフィス・アワー)	Microsoft Teams により連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。		
教 科 書	・過去問題（コンビニエンスストアのマルチコピー機より購入可） ・日本技術英語協会ウェブサイト上のサンプル問題、プレテスト問題（プロフェッショナルおよび準プロフェッショナルの試験については、同一の問題を使用し、得点率に応じて判定をする）		
補 助 教 科 書 等	『COCET 2600』理工系学生のための必修英単語 2600 成美堂、2012年、1870円（税込）		
参 考 図 書	技術英検に関連する書籍など		
プログラム目標	(C-3)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
科学・技術分野の英語文書を読みこなし、かつ正しく、明確に、簡潔に書くことができる。文書の形式は種類（マニュアル、仕様書、論文等）に応じて異なることを理解しており、正しく使い分けることができる。具体的には、実務で科学・技術分野の英語文書に携わり、技術英語全般の知識を有する者を対象とした技術英検準プロフェッショナルを受験し、合格することが目標となる。		技術英検準プロフェッショナルに合格した者について、評定「A」（評点90点）を認定する(100%)	
履 修 上 の 注 意	学生各自が事前に教科書（補助教科書等）で学習を行い、教員が個別の質問に答える形式を取る。専門用語の使用頻度が高いのみならず、実務で科学・技術分野の英語文書に携わる者を対象にした試験である。そのため、技術英検1級以上の実力を備えていることが前提になる。参考書等を用い、様々な形式の文書を深く理解・納得をし、演習回数を重ねることが重要である。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 英語長文（800words 前後）の英文要約演習 ・ 和文（200～300 文字）英訳演習 ・ 冗長和文（500 文字）の英文要約演習 ・ テクニカルライティングの考え方 ・ 冗長英文のリライト演習		・ 技術英語に関する英語の長文を読み、指定された語数で英語に要約する演習を行う。 ・ 工業技術に関する日本語の文章を適切に英訳する演習を行う。 ・ 工業技術に関する日本語の文章を適切に要約し、さらにそれを指定された語数で英訳する演習を行う。 ・ 英文を構成するパラグラフの論理的思考の整理についての演習を行う。 ・ 不完全な情報の英語および日本語の文章を適切な形にして、正確な情報を伝える英文を構成する演習を行う。	
注1 各自が計画的に学習を進めていくことが重要である。（質問は随時受け付ける）			
注2 技術英検準プロフェッショナルは、公開会場で受験をすることになる。（受験申込も各自で行うこと）			
注3 公開会場で受験をして合格した際は、直ちに合格証明書の原本を英語科に提出すること。なお、当該年度内に単位認定するためには、2月上旬までに合格証明書の原本を提出できるものとする。それ以降については、翌年度単位認定を行う。			
評 価 方 法	技術英検を受験し、準プロフェッショナルに合格した者に対して単位の認定を行う。なお、評点については90点とする。		

授 業 科 目	特別学修(技術英検：１級)		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・１単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学科１～５年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	Technical Communication、Technical Terms、Reading Comprehension		
関 連 科 目	英語ⅠＡ・Ｂ、英語ⅡＡ・Ｂ、英文法、英語ⅢＡ・Ｂ、英語ⅣＡ・Ｂ、英語ⅤＡ・Ｂ 英語演習ⅠＡ・Ｂ、英会話ⅠＡ・Ｂ、英語演習Ⅱ、英会話Ⅱ		
担 当 教 員	小川祐輔		
連絡先(オフィス・アワー)	Microsoft Teams により連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。		
教 科 書	日本工業英語協会編『技術英検１級問題集』日本能率協会マネジメントセンター、 2022年度版、1980円(税込)		
補 助 教 科 書 等	『COCET 2600』理工系学生のための必修英単語 2600 成美堂、2012年、1870円(税込)		
参 考 図 書	技術英検に関連する書籍、問題集、当該ウェブサイト上のサンプル問題など		
プログラム目標	(C-3)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
科学・技術に関する英文を読むことができる。英文資料の要約、議事録、英文E-mail等の短文が書ける。具体的には、技術英語全般の知識を有する者を対象とした技術英検１級を受験し、合格することが目標となる。		技術英検１級に合格した者について、評定「A」(評点90点)を認定する(100%)	
履 修 上 の 注 意	学生各自が事前に教科書(補助教科書等を含む)で学習を行い、教員が個別の質問に答える形式を取る。技術英語は一般的な英語とは異なり、専門用語の使用頻度が高い。そのため、専門用語の学習は不可欠である。文法・構文については、一般的な英語と差異はないが、参考書等を用い、深く理解・納得をし、演習回数を重ねることが重要である。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 単語問題演習 ・ 適語補充演習 ・ 英文書き換え演習 ・ 英文和訳演習 ・ 和文英訳演習		・ 技術英語に使用される専門的な英単語の英文による定義を選ぶ演習を行う。 ・ 技術英語で書かれた英文の空所に適切な単語を補充する演習を行う。 ・ 技術英語で書かれた複数の英文を簡潔な一文に書き直す演習を行う。 ・ 技術英語で書かれた文章を適切に和訳する演習を行う。 ・ 工業技術に関する日本語の文章を適切に英訳する演習を行う。	
注１ 各自が計画的に学習を進めていくことが重要である。(質問は随時受け付ける)			
注２ 技術英検１級は本校で団体受験を実施しないため、公開会場で受験をすることになる。(受験申込も各自で行うこと)			
注３ 公開会場で受験をして合格した際は、直ちに合格証明書の原本を英語科に提出すること。なお、当該年度内に単位認定するためには、２月上旬までに合格証明書の原本を提出できるものとする。それ以降については、翌年度単位認定を行う。			
評 価 方 法	技術英検を受験し、１級に合格した者に対して単位の認定を行う。なお、評点については90点とする。		

授 業 科 目	特別学修(技術英検：2級)		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学科1～5年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	Technical Communication、Technical Terms、Reading Comprehension		
関 連 科 目	英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英文法、英語ⅢA・B、英語ⅣA・B、英語ⅤA・B 英語演習ⅠA・B、英会話ⅠA・B、英語演習Ⅱ、英会話Ⅱ		
担 当 教 員	小川祐輔		
連絡先(オフィス・アワー)	Microsoft Teams により連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。		
教 科 書	日本工業英語協会編『技術英検2級問題集』日本能率協会マネジメントセンター、 2022年度版、1760円(税込)		
補 助 教 科 書 等	『COCET 2600』理工系学生のための必修英単語 2600 成美堂、2012年、1870円(税込)		
参 考 図 書	技術英検に関連する書籍、問題集、当該ウェブサイト上のサンプル問題など		
プ ロ グ ラ ム 目 標	(C-3)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
工業技術を中心とした科学技術情報を英語で正確に理解し、事実を明確に英語で表現する英語力を身に付けることができる。具体的には工業高等専門学校上級学年程度の技術英語の応用知識を有する者を対象とした技術英検2級を受験し、合格することが目標となる。		技術英検2級に合格した者について、評定「A」(評点90点)を認定する(100%)	
履 修 上 の 注 意	学生各自が事前に教科書(補助教科書等を含む)で学習を行い、教員が個別の質問に答える形式を取る。技術英語は一般的な英語とは異なり、専門用語の使用頻度が高い。そのため、専門用語の学習は不可欠である。文法・構文については、一般的な英語と差異はないが、参考書等を用い、深く理解・納得をし、演習回数を重ねることが重要である。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 単語問題演習 ・ 適語補充演習 ・ 英文和訳演習 ・ 和文英訳演習(短文・並べ替え)		・ 技術英語に使用される専門的な英単語の意味を選ぶ演習、専門的な日本語を表す英単語を選ぶ演習を行う。また、専門的な英単語の英文による定義を選ぶ演習を行う。 ・ 技術英語で書かれた英文(短文)の空所に適切な単語を補充する演習を行う。 ・ 技術英語で書かれた英文を適切に和訳する演習を行う。 ・ 工業技術に関する日本語の文を適切に英訳する演習を行う。	
注1 各自が計画的に学習を進めていくことが重要である。(質問は随時受け付ける)			
注2 技術英検2級は本校で団体受験を実施しないため、公開会場で受験をすることになる。(受験申込も各自で行うこと)			
注3 公開会場で受験をして合格した際は、直ちに合格証明書の原本を英語科に提出すること。なお、当該年度内に単位認定するためには、2月上旬までに合格証明書の原本を提出できるものとする。それ以降については、翌年度単位認定を行う。			
評 価 方 法	技術英検を受験し、2級に合格した者に対して単位の認定を行う。なお、評点については90点とする。		

授 業 科 目	特別学修(技術英検：3級)		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学科1～5年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	Technical Communication、Technical Terms、Reading Comprehension		
関 連 科 目	英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英文法、英語ⅢA・B、英語ⅣA・B、英語ⅤA・B 英語演習ⅠA・B、英会話ⅠA・B、英語演習Ⅱ、英会話Ⅱ		
担 当 教 員	小川祐輔		
連絡先(オフィス・アワー)	Microsoft Teams により連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。		
教 科 書	日本工業英語協会編『技術英検3級問題集』日本能率協会マネジメントセンター、 2022年度版、1650円(税込)		
補 助 教 科 書 等	『COCET 2600』理工系学生のための必修英単語 2600 成美堂、2012年、1870円(税込)		
参 考 図 書	技術英検に関連する書籍、問題集、当該ウェブサイト上のサンプル問題など		
プログラム目標	(C-3)		
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ 工業技術を中心とした科学技術情報を英語で正確に理解し、事実を明確に英語で表現する基礎的な英語力を身に付けることができる。具体的には、工業高等専門学校程度の技術英語の基礎知識を有する者を対象とした技術英検3級を受験し、合格することが目標となる。		技術英検3級に合格した者について、評定「A」(評点90点)を認定する(100%)	
履 修 上 の 注 意	学生各自が事前に教科書(補助教科書等を含む)で学習を行い、教員が個別の質問に答える形式を取る。技術英語は一般的な英語とは異なり、専門用語の使用頻度が高い。そのため、専門用語の学習は不可欠である。文法・構文については、一般的な英語と差異はないが、参考書等を用い、深く理解・納得をし、演習回数を重ねることが重要である。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 英文和訳演習(短文) ・ 適語補充演習 ・ 単語問題演習		・ 技術英語で書かれた英文(短文)の適切な和訳を選ぶ演習を行う。 ・ 技術英語で書かれた英文(短文)の空所に適切な単語を補充する演習を行う。 ・ 技術英語に使用される専門的な英単語の意味を選ぶ演習、専門的な日本語を表す英単語を選ぶ演習を行う。	
注1 各自が計画的に学習を進めていくことが重要である。(質問は随時受け付ける)			
注2 技術英検3級は本校で年1回(6月)、3年生限定で実施する予定である。なお、1～2年次に当該級を取得する場合は、公開会場で受験をすることになる。(受験申込も各自で行うこと)			
注3 公開会場で受験をして合格した際は、直ちに合格証明書の原本を英語科に提出すること。(本校で団体受験をした場合は、合格証明書の提出は不要)なお、当該年度内に単位認定するためには、2月上旬までに合格証明書の原本を提出できるものとする。それ以降については、翌年度単位認定を行う。			
評 価 方 法	技術英検を受験し、3級に合格した者に対して単位の認定を行う。なお、評点については90点とする。		

授 業 科 目		特別学修(TOEIC L&R：上級)	
開 設 学 科 学 系		人文学系	区 分 ・ 単 位 数
受 講 年 科 ・ 学 期		1～5学年	授 業 形 態
キ ー ワ ー ド		Listening Comprehension、Rapid Reading、Communicative Competence	
関 連 科 目		英文法、英語ⅠA～VB、英語演習ⅠA・ⅠB・Ⅱ、英会話ⅠA・ⅠB・Ⅱ	
担 当 教 員		小澤健志	
連絡先(オフィス・アワー)		Microsoft Teams により連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。	
教 科 書		『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集4～7』国際ビジネスコミュニケーション協会、2018～2020年、税込3,080円 ※ 例示であり、各自の実力に合致したものを使用すること。	
補 助 教 科 書 等		TOEIC L&R に関しては多くの書籍等が発行されており、具体的な補助教科書等は定めないが、教科書と同様に、現状の実力に合致した、自分にとって使い易い書籍等を使用すること。	
参 考 図 書		参考図書についても具体的な書籍を挙げることはしないが、試験内容が2016年に若干変更されており、この年以降に初版が発行された書籍等を使用すること。	
プログラム目標		C－3	
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
国際ビジネスコミュニケーション協会が実施する「TOEIC Listening & Reading Test」(略称：TOEIC L&R)において730点以上を得点した場合に単位を認定する。		国際ビジネスコミュニケーション協会が実施する「TOEIC Listening & Reading Test」(略称：TOEIC L&R)の得点を評価基準の100%とする。※「成績の算出方法」欄参照	
履 修 上 の 注 意		上級の単位認定となる得点のためには最低120時間以上の学習を要することになるが、各自の実力等に応じ、着実な学習を継続すること。	
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ ガイダンス ・ Part Ⅰ (写真描写問題) ・ Part Ⅱ (応答問題) ・ Part Ⅲ (会話問題) ・ ・ Part Ⅳ (説明文問題) ・ Part Ⅴ (短文穴埋め問題) ・ Part Ⅵ (長文穴埋め問題) ・ Part Ⅶ (読解問題)		・ 評価方法等に関し、各自で諸資料を確認すること。 ・ 写真を見ながら4つのセンテンスを聴き取り、状況を最も適切に表現しているセンテンスを選択する演習を行う。 ・ 質問とそれに続く3つの応答を聴き取り、正しい応答を選択する演習を行う。 ・ 短い会話を聴き取り、設問を読み、正しい答を選択する演習を行う。 ・ 短いスピーチまたはアナウンスを聴き、設問に答える演習を行う。 ・ 短いセンテンス中の空欄に入るものとして最も良く当てはまるものを答える演習を行う。 ・ 不完全な文章を完成させるために、単語や句または一文の中から最も適当なものを選ぶ演習を行う。 ・ 様々な資料を読み、設問に答える演習を行う。なお、文書内に新たな一文を挿入する形式の問題も含まれる。	
成績の算出方法	TOEIC L&R 得点		評価点
	860～990点		100点
	730～859点		90点
	470～729点		中級Ⅰ・Ⅱで認定
	400～469点		初級で認定等
	0～399点		0点
注1 TOEIC L&R に関わる単位認定等は第5学年において行う。			
注2 729点までの得点については、「英語演習Ⅱ」(5年・必修選択・前期・1単位)の振替対象(評価点は特別学修での評価点と同一)および「中級Ⅰ・Ⅱ」の単位認定対象となる。			

授 業 科 目		特別学修(TOEIC L&R：中級Ⅱ)	
開 設 学 科 学 系		人文学系	区 分 ・ 単 位 数
受 講 年 科 ・ 学 期		1～5学年	授 業 形 態
キ ー ワ ー ド		Listening Comprehension、Rapid Reading、Communicative Competence	
関 連 科 目		英文法、英語ⅠA～VB、英語演習ⅠA・ⅠB・Ⅱ、英会話ⅠA・ⅠB・Ⅱ	
担 当 教 員		小澤健志	
連絡先(オフィス・アワー)		Microsoft Teams により連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。	
教 科 書		『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集3』国際ビジネスコミュニケーション協会、2017年、税込3,080円 ※ 例示であり、各自の実力に合致したものを使用すること。	
補 助 教 科 書 等		TOEIC L&R に関しては多くの書籍等が発行されており、具体的な補助教科書等は定めないが、教科書と同様に、現状の実力に合致した、自分にとって使い易い書籍等を使用すること。	
参 考 図 書		参考図書についても具体的な書籍を挙げることはしないが、試験内容が2016年に若干変更されており、この年以降に初版が発行された書籍等を使用すること。	
プログラム目標		C－3	
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
国際ビジネスコミュニケーション協会が実施する「TOEIC Listening & Reading Test」(略称：TOEIC L&R)において600点以上を得点した場合に単位を認定する。		国際ビジネスコミュニケーション協会が実施する「TOEIC Listening & Reading Test」(略称：TOEIC L&R)の得点を評価基準の100%とする。※「成績の算出方法」欄参照	
履 修 上 の 注 意		中級Ⅱの単位認定となる得点のためには最低30時間以上の学習を要することになるが、各自の実力等に応じ、着実な学習を継続すること。	
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ ガイダンス ・ Part Ⅰ (写真描写問題) ・ Part Ⅱ (応答問題) ・ Part Ⅲ (会話問題) ・ ・ Part Ⅳ (説明文問題) ・ Part Ⅴ (短文穴埋め問題) ・ Part Ⅵ (長文穴埋め問題) ・ Part Ⅶ (読解問題)		・ 評価方法等に関し、各自で諸資料を確認すること。 ・ 写真を見ながら4つのセンテンスを聴き取り、状況を最も適切に表現しているセンテンスを選択する演習を行う。 ・ 質問とそれに続く3つの応答を聴き取り、正しい応答を選択する演習を行う。 ・ 短い会話を聴き取り、設問を読み、正しい答を選択する演習を行う。 ・ 短いスピーチまたはアナウンスを聴き、設問に答える演習を行う。 ・ 短いセンテンス中の空欄に入るものとして最も良く当てはまるものを答える演習を行う。 ・ 不完全な文章を完成させるために、単語や句または一文の中から最も適当なものを選ぶ演習を行う。 ・ 様々な資料を読み、設問に答える演習を行う。なお、文書内に新たな一文を挿入する形式の問題も含まれる。	
成績の算出方法	TOEIC L&R 得点		評価点
	730～990点		上級で認定
	700～729点		100点
	600～699点		90点
	400～599点		中級Ⅰ等で認定等
	0～399点		0点
注1 TOEIC L&R に関わる単位認定等は第5学年において行う。			
注2 599点までの得点については、「英語演習Ⅱ」(5年・必修選択・前期・1単位)の振替対象(評価点は特別学修での評価点と同一)および「中級Ⅰ」の単位認定対象となる。			
注3 730点以上の得点については、「上級」の単位認定の対象となる。			

授 業 科 目		特別学修(TOEIC L&R：中級Ⅰ)	
開 設 学 科 学 系		人文学系	区 分 ・ 単 位 数
受 講 年 科 ・ 学 期		1～5学年	授 業 形 態
キ ー ワ ー ド		Listening Comprehension、Rapid Reading、Communicative Competence	
関 連 科 目		英文法、英語ⅠA～ⅤB、英語演習ⅠA・ⅠB・Ⅱ、英会話ⅠA・ⅠB・Ⅱ	
担 当 教 員		小澤健志	
連絡先(オフィス・アワー)		Microsoft Teams により連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。	
教 科 書		『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集2』国際ビジネスコミュニケーション協会、2017年、税込3,080円 ※ 例示であり、各自の実力に合致したものを使用すること。	
補 助 教 科 書 等		TOEIC L&R に関しては多くの書籍等が発行されており、具体的な補助教科書等は定めないが、教科書と同様に、現状の実力に合致した、自分にとって使い易い書籍等を使用すること。	
参 考 図 書		参考図書についても具体的な書籍を挙げることはしないが、試験内容が2016年に若干変更されており、この年以降に初版が発行された書籍等を使用すること。	
プ ロ グ ラ ム 目 標		C－3	
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
国際ビジネスコミュニケーション協会が実施する「TOEIC Listening & Reading Test」(略称：TOEIC L&R)において470点以上を得点した場合に単位を認定する。		国際ビジネスコミュニケーション協会が実施する「TOEIC Listening & Reading Test」(略称：TOEIC L&R)の得点を評価基準の100%とする。※「成績の算出方法」欄参照	
履 修 上 の 注 意		中級Ⅰの単位認定となる得点のためには最低30時間以上の学習を要することになるが、各自の実力等に応じ、着実な学習を継続すること。	
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ ガイダンス ・ PartⅠ (写真描写問題) ・ PartⅡ (応答問題) ・ PartⅢ (会話問題) ・ ・ PartⅣ (説明文問題) ・ PartⅤ (短文穴埋め問題) ・ PartⅥ (長文穴埋め問題) ・ PartⅦ (読解問題)		・ 評価方法等に関し、各自で諸資料を確認すること。 ・ 写真を見ながら4つのセンテンスを聴き取り、状況を最も適切に表現しているセンテンスを選択する演習を行う。 ・ 質問とそれに続く3つの応答を聴き取り、正しい応答を選択する演習を行う。 ・ 短い会話を聴き取り、設問を読み、正しい答を選択する演習を行う。 ・ 短いスピーチまたはアナウンスを聴き、設問に答える演習を行う。 ・ 短いセンテンス中の空欄に入るものとして最も良く当てはまるものを答える演習を行う。 ・ 不完全な文章を完成させるために、単語や句または一文の中から最も適当なものを選ぶ演習を行う。 ・ 様々な資料を読み、設問に答える演習を行う。なお、文書内に新たな一文を挿入する形式の問題も含まれる。	
成績の算出方法	TOEIC L&R 得点		評価点
	600～990点		中級Ⅱ以上で認定
	500～599点		100点
	470～499点		90点
	400～469点		初級で認定／振替
	0～399点		0点
注1 TOEIC L&R に関わる単位認定等は第5学年において行う。			
注2 469点までの得点については、「英語演習Ⅱ」(5年・必修選択・前期・1単位)の振替対象となる。なお、評価点は特別学修での評価点と同一になる。			
注3 600点以上の得点については、「中級Ⅱ」以上の単位認定の対象となる。			

s 授 業 科 目		特別学修(TOEIC L&R：初級)		
開 設 学 科 学 系		人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期		1～5学年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド		Listening Comprehension、Rapid Reading、Communicative Competence		
関 連 科 目		英文法、英語ⅠA～VB、英語演習ⅠA・ⅠB・Ⅱ、英会話ⅠA・ⅠB・Ⅱ		
担 当 教 員		小澤健志		
連絡先(オフィス・アワー)		Microsoft Teams により連絡を行うこと。対応時間については個別に調整等行う。		
教 科 書		『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集1』国際ビジネスコミュニケーション協会、2016年、税込3,080円 ※ 例示であり、各自の実力に合致したものを使用すること。		
補 助 教 科 書 等		TOEIC L&R に関しては多くの書籍等が発行されており、具体的な補助教科書等は定めないが、教科書と同様に、現状の実力に合致した、自分にとって使い易い書籍等を使用すること。		
参 考 図 書		参考図書についても具体的な書籍を挙げることはしないが、試験内容が2016年に若干変更されており、この年以降に初版が発行された書籍等を使用すること。		
プログラム目標		C－3		
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)		
国際ビジネスコミュニケーション協会が実施する「TOEIC Listening & Reading Test」(略称：TOEIC L&R)において400点以上を得点した場合に単位を認定する。		国際ビジネスコミュニケーション協会が実施する「TOEIC Listening & Reading Test」(略称：TOEIC L&R)の得点を評価基準の100%とする。※「成績の算出方法」欄参照		
履 修 上 の 注 意		初級の単位認定となる得点のためには最低30時間以上の学習を要することになるが、各自の実力等に応じ、着実な学習を継続すること。		
		授 業 計 画		
項 目		学 習 内 容 等		
・ ガイダンス ・ Part Ⅰ (写真描写問題) ・ Part Ⅱ (応答問題) ・ Part Ⅲ (会話問題) ・ ・ Part Ⅳ (説明文問題) ・ Part Ⅴ (短文穴埋め問題) ・ Part Ⅵ (長文穴埋め問題) ・ Part Ⅶ (読解問題)		・ 評価方法等に関し、各自で諸資料を確認すること。 ・ 写真を見ながら4つのセンテンスを聴き取り、状況を最も適切に表現しているセンテンスを選択する演習を行う。 ・ 質問とそれに続く3つの応答を聴き取り、正しい応答を選択する演習を行う。 ・ 短い会話を聴き取り、設問を読み、正しい答を選択する演習を行う。 ・ 短いスピーチまたはアナウンスを聴き、設問に答える演習を行う。 ・ 短いセンテンス中の空欄に入るものとして最も良く当てはまるものを答える演習を行う。 ・ 不完全な文章を完成させるために、単語や句または一文の中から最も適当なものを選ぶ演習を行う。 ・ 様々な資料を読み、設問に答える演習を行う。なお、文書内に新たな一文を挿入する形式の問題も含まれる。		
成績の算出方法	TOEIC L&R 得点		評価点	
	470～990点		中級Ⅰ以上で認定	
	450～469点		100点	
	425～449点		90点	
	400～424点		80点	
	0～399点		0点	
		注1 TOEIC L&R に関わる単位認定等は第5学年において行う。		
		注2 400点から469点までの得点については、「英語演習Ⅱ」(5年・必修選択・前期・1単位)の振替対象となる。なお、評価点は本特別学修での評価点と同一になる。		
		注3 470点以上の得点については、「中級Ⅰ」以上の単位認定の対象となる。		

授 業 科 目	日本漢字能力検定（２級／準１級／１級）		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・各１単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学年学科・全学期	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	常用漢字，部首，対義語・類義語，同音・同訓異字，四字熟語，熟語の構成		
関 連 科 目	国語ⅠＡ・ⅠＢ／国語ⅡＡ・ⅡＢ／国語Ⅲ／国語表現／国文学		
担 当 教 員	加藤達彦・田嶋彩香		
連絡先(オフィス・アワー)	kato@h.kisarazu.ac.jp・tajima@h.kisarazu.ac.jp		
教 科 書	なし		
補 助 教 科 書 等	『ことばを広げる 新漢字ノート』（浜島書店）		
参 考 図 書	『漢検 漢字学習ステップ』（日本漢字能力検定協会）など日本漢字能力検定２級以上に対応した問題集		
プログラム目標			
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・各級の審査基準に応じた学習を自主的に進め、日本語や漢字に関する知識と理解を深め、日本漢字能力検定２級以上の取得を目指す。		・担当教員が指定した学習計画書および単位認定願（合格者のみ）を提出し、日本漢字能力検定２級以上に合格した者について評定「A」を認定する。(100%)	
履 修 上 の 注 意	・本科目の単位を修得するには、日本漢字能力検定２級以上に合格しなければならない。 ・日本漢字能力検定２級・準１級・１級の取得で各１単位、合計３単位まで修得可能であるが、資格取得日は本校在学中に限る。 ・本科目は特別学修科目であり、単位の修得には「単位認定願」を提出しなければならない。必ず合格した年度内にそれを証する書類を添付して特別学修による単位認定願を担当教員に提出すること。ただし、資格取得日が年度末（２月下旬～３月末日）に当たる場合、翌年度の単位認定とする。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・自主的な学習		・担当教員の指示・指導を受け学修計画を作成する。	
		・日本漢字能力検定について、指定された時間数の自主的な学習に取り組み、自ら試験に申し込み受験する。	
		・検定試験合格者は、単位認定願を作成し、期日までに合格を証する書類を添付して担当教員に提出する。	
成績の算出方法	担当教員が指定した学習計画書および単位認定願（合格者のみ）を提出し、日本漢字能力検定２級以上に合格した者について評定「A」を認定する。(100%)		

授 業 科 目	特別学修（ドイツ語技能検定：2級／3級／4級）		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位（3・4級）／2単位（2級）
受 講 年 科 ・ 学 期	全学年全学科・全学期	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	ドイツ語の四技能（Lesen/Hören/Schreiben/Sprechen）＋コミュニケーション能力		
関 連 科 目	ドイツ語IA・IB／ドイツ語IIA・IIB／ドイツ語IIIA・IIIB、スタートドイツ語I・II、ドイツ語基礎統一試験（ZD）		
担 当 教 員	柴田 育子		
連絡先(オフィス・アワー)	Microsoft Teams により連絡を行うこと。対応時間については個別に調整する。		
教 科 書	『独検過去問題集4級・3級・2級』（公益財団法人ドイツ語学文学振興会）		
補 助 教 科 書 等	森泉・他『新 独検対策4級・3級必須単語集』（白水社）など。		
参 考 図 書	清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』（白水社）など。		
プログラム目標			
達 成 目 標 （合 格 点）		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
各級の合格基準に応じた学習を自主的に進め、ドイツ語技能検定試験4級・3級・2級の合格を目指す。		担当教員が指定した学習計画書および単位認定願(合格者のみ)を提出し、ドイツ語技能検定試験4級・3級・2級に合格したものに評定「A」を認定する。(100%)	
履 修 上 の 注 意	本科目の単位を修得するには、ドイツ語技能検定4級・3級・2級のいずれかに合格しなければならない。ドイツ語技能検定(独検)とは、公益財団法人ドイツ語学文学振興会(以下「本会」)が実施するドイツ語の技能検定試験であり、ドイツ大使館、オーストリア大使館、スイス大使館、ゲーテ・インスティトゥートが後援している。 ドイツ語技能検定4級・3級で各1単位、2級で2単位を取得できる。資格取得日は本校在学中に限る。 本科目は特別学修科目であり、単位の修得には「単位認定願」を提出しなければならない。合格した年度内にそれを証する書類を添付して特別学修による単位認定願を担当教員に提出すること。ドイツ語技能検定は、毎年2回(6月・12月)に実施される。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
自主的な学習		担当教員の指示・指導を受け学修計画を作成する。 ドイツ語技能検定の各級の試験の合格を目指し、指定された時間数の自主的な学習に取り組み、自ら試験に申し込み受験する。 検定試験合格者は、単位認定願を作成し、期日までに合格を証する書類を添付して担当教員に提出する。	
成績の算出方法	担当教員が指定した学習計画書および単位認定願(合格者のみ)を提出し、ドイツ語技能検定試験4級・3級・2級に合格したものに評定「A」を認定する。(100%)		

授 業 科 目	特別学修（情報処理技術者：ITパスポート）		
開 設 学 科 学 系	機械工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期		授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	コンピュータシステム，ネットワーク，データベース，情報セキュリティ		
関 連 科 目	情報処理I，情報処理II，情報処理III		
担 当 教 員	小田 功		
連絡先(オフィス・アワー)	oda@maple.m.kisarazu.ac.jp（事前に時間調整を行った上で質問に応じる）		
教 科 書	徹底攻略ITパスポート教科書+模擬問題，インプレス，1738円		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標			
達 成 目 標 （ 合 格 点 ）			各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)
職業人として、情報機器及びシステムの把握や担当業務の遂行及びシステム化を推進するために、次の基礎的な知識を修得する。 ① 利用する情報機器及びシステムを把握するために、コンピュータシステム，データベース，ネットワーク，情報セキュリティに関する知識をもち，オフィスツールを活用できる。 ② 担当業務を理解するために，企業活動や関連業務の知識をもつ。また，担当業務の問題，把握及び必要な解決を図るために，システム的な考え方や論理的な思考力をもち，かつ，問題分析及び問題解決手法に関する知識をもつ。 ③ 安全に情報を収集し，効果的に活用するために，関連法規や情報セキュリティに関する各種規定に従って活動できる。 ④ 業務の分析やシステム化の支援を行うために，情報システムの開発及び運用に関する知識をもつ。 ⑤ 新しい技術（AI，ビッグデータ，IoT など）や新しい手法（アジャイルなど）の概要に関する知識をもつ。			(独) 情報処理推進機構が実施している I T パスポート試験 (* I P) の資格試験の可否で評価する。 * Information Technology Passport Examination
履 修 上 の 注 意	これまでに学習してきた情報処理とコンピュータの知識を復習すること。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		
・ 企業と法務 ・ 経営戦略 ・ システム戦略 ・ 開発技術 ・ プロジェクトマネジメント ・ サーマネジメント ・ 基礎理論 ・ コンピュータシステム ・ 技術要素	・ 企業活動，法務について学ぶ。 ・ 経営戦略マネジメント，技術戦略マネジメント，ビジネスインダストリについて学ぶ。 ・ システム戦略，システム企画について学ぶ。 ・ システム開発技術，ソフトウェア開発管理技術について学ぶ ・ プロジェクトマネジメントについて学ぶ。 ・ サーマネジメント，システム監査について学ぶ。 ・ 基礎理論，アルゴリズムとプログラミングについて学ぶ。 ・ コンピュータ構成要素，システム構成要素，ソフトウェア，ハードウェアについて学ぶ。 ・ 情報デザイン，情報メディア，データベース，ネットワーク，セキュリティについて学ぶ。		
成績の算出方法	(独) 情報処理推進機構が実施している I T パスポート試験（I P）に合格した者について，評定「A」を認定する。		

授 業 科 目	特別学修（基本情報技術者試験）		
開 設 学 科 学 系	全学科	区 分 ・ 単 位 数	選択（特別学修）・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学科1～5年・通年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	基本理論、アルゴリズム、プログラミング、コンピュータ構成要素、システム構成要素、ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインターフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティ、システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム戦略、経営戦略、企業と法務		
関 連 科 目	(機械工学科) 情報処理I～III、論理回路、等 (電気電子工学科) 情報リテラシー、プログラミングI～II、ディジタル回路I～II、等 (電子制御工学科) 電子計算機I～III、プログラミング技法I～II、情報処理I～II、等 (情報工学科) コンピュータ入門I～II、プログラミング基礎I～II、論理回路I～II、等 (環境都市工学科) 情報処理入門、プログラミング演習、等		
担 当 教 員	若葉陽一		
連絡先(オフィス・アワー)	wakaba@e.kisarazu.ac.jp （事前にメール等により調整を行なった上で質問に応ずる。）		
教 科 書	なし		
補 助 教 科 書 等	なし		
参 考 図 書	きたみりゅうじ 著、“キタミ式イラストIT塾 基本情報技術者”，技術評論社		
プログラム目標			
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
基本情報技術者試験に合格する		基本情報技術者試験に合格した者について、評定「A」を認定する（100%）	
履 修 上 の 注 意	・履修希望者は担当教員に試験を受ける旨を報告し、授業計画書を提出すること ・試験合格後は速やかに担当教員に報告し、単位申請書類（合格証等）を提出すること		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
4月から9月の間に以下の科目を担当教員のもとでの学習または自学自習を行う			
・テクノロジー系		・基礎理論 ・アルゴリズムとプログラミング ・コンピュータ構成要素 ・システム構成要素 ・ソフトウェア ・ハードウェア ・ヒューマンインターフェース ・マルチメディア ・データベース ・ネットワーク ・セキュリティ ・システム開発技術 ・ソフトウェア開発管理技術	
・マネジメント系		・プロジェクトマネジメント ・サービスマネジメント ・システム監査	
・ストラテジ系		・システム戦略 ・システム企画 ・経営戦略マネジメント ・技術戦略マネジメント ・ビジネスインダストリ ・企業活動 ・法務	
成績の算出方法	基本情報技術者試験に合格に合格した者について、評定「A」を認定する。		

授 業 科 目	特別学修（応用情報技術者試験）		
開 設 学 科 学 系	全学科	区 分 ・ 単 位 数	選択（特別学修）・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学科1～5年・通年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	基本理論、アルゴリズム、プログラミング、コンピュータ構成要素、システム構成要素、ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインターフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティ、システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム戦略、経営戦略、企業と法務		
関 連 科 目	(機械工学科) 情報処理I～III、論理回路、等 (電気電子工学科) 情報リテラシー、プログラミングI～II、ディジタル回路I～II、等 (電子制御工学科) 電子計算機I～III、プログラミング技法I～II、情報処理I～II、等 (情報工学科) コンピュータ入門I～II、プログラミング基礎I～II、論理回路I～II、等 (環境都市工学科) 情報処理入門、プログラミング演習、等		
担 当 教 員	若葉陽一		
連絡先(オフィス・アワー)	wakaba@e.kisarazu.ac.jp （事前にメール等により調整を行なった上で質問に応ずる。）		
教 科 書	なし		
補 助 教 科 書 等	なし		
参 考 図 書	きたみりゅうじ 著、“キタミ式イラストIT塾 応用情報技術者”，技術評論社		
プログラム目標			
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
応用情報技術者試験に合格する		応用情報技術者試験に合格した者について、評定「A」を認定する（100%）	
履 修 上 の 注 意	・履修希望者は担当教員に試験を受ける旨を報告し、授業計画書を提出すること ・試験合格後は速やかに担当教員に報告し、単位申請書類（合格証等）を提出すること		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
4月から9月の間に以下の科目を担当教員のもとでの学習または自学自習を行う			
・テクノロジー系		・基礎理論 ・アルゴリズムとプログラミング ・コンピュータ構成要素 ・システム構成要素 ・ソフトウェア ・ハードウェア ・ヒューマンインターフェース ・マルチメディア ・データベース ・ネットワーク ・セキュリティ ・システム開発技術 ・ソフトウェア開発管理技術	
・マネジメント系		・プロジェクトマネジメント ・サービスマネジメント ・システム監査	
・ストラテジ系		・システム戦略 ・システム企画 ・経営戦略マネジメント ・技術戦略マネジメント ・ビジネスインダストリ ・企業活動 ・法務	
成績の算出方法	応用情報技術者試験に合格に合格した者について、評定「A」を認定する。		

授 業 科 目	特別学修（情報検定(J検) 情報活用試験1級)		
開 設 学 科 学 系	電子制御工学科	区 分 ・ 単 位 数	特別学修選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電子制御工学科・1～5年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	システム、デジタル技術、制御、情報		
関 連 科 目	プログラミング技法Ⅰ～Ⅱ、電子計算機Ⅰ～Ⅲ、など		
担 当 教 員	大橋太郎		
連絡先(オフィス・アワー)	oohashi@d.kisarazu.ac.jp		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標	ネットワーク化された環境において、情報機器の設定や操作、活用における基本的な知識と技能を持ち、さらに情報の加工や活用ができ、情報化および情報社会の中に関わっていく人を対象するものが受験する資格のため、これらを総合的に理解することを目標とする。		
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ 情報検定(J検) 情報活用試験1級に合格する。		合格した者について、評定「A」を認定する (100%)。	
履 修 上 の 注 意			
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
検定内容に応じた主体的学習	情報と情報の利用 ・ 情報の概念を理解する。また情報を収集し整理し役立てるための加工方法について理解する。さらに情報はコンピュータと人間との間でどのような形で表現されるのかを理解する。 パソコンを利用したシステム ・ ネットワークに接続されたパソコンを取り巻くハードウェアやソフトウェア、入出力インタフェース、ファイル管理の方法などについて理解する。 ネットワークの利用 ・ インターネットやLANなどのネットワークを構成する機器や各種のネットワークの利用形態などを理解する。 情報ネットワーク社会への対応 ・ 情報ネットワーク社会に関する知識や社会とコンピュータネットワークの関わり合いについて理解する。さらに情報ネットワーク社会の諸問題について理解する。 情報セキュリティ ・ 情報ネットワーク社会で必要となるセキュリティについて理解する。 表計算ソフトなどを利用した問題解決 ・ 表計算、データベース（SQLを除く）などのアプリケーションソフトを利用した問題解決を理解する。		
成績の算出方法	情報検定(J検) 情報活用試験1級に合格した者について、評定「A」を認定する。		

授 業 科 目	特別学修（情報検定：情報活用2級）		
開 設 学 科 学 系	環境都市工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	環境都市工学科1～5年・通年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	情報,		
関 連 科 目	情報処理入門, プログラム演習など		
担 当 教 員	原田健二		
連絡先(オフィス・アワー)	harada@c.kisarazu.ac.jp（オフィスアワーは特に定めない, いつでも来室可）		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プログラム目標			
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ 情報検定（J検）情報活用試験2級について計画的に自学自習に取り組み, 試験に合格する		合格したものについて, 評定「A」を認定する（100%）	
履 修 上 の 注 意	・ 担当教員の指示・指導を受け, 学修計画書を作成すること ・ 試験が実施されるまで, 指定された時間数の自学自習を計画的に取り組むこと. ・ 単位数×30時間以上の自学自習が必要である.		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 学修計画の作成		・ 担当教員の指示・指導を受け学修計画書を作成する	
・ 自学自習		・ 情報検定（J検）情報活用試験2級について指定された時間数の自学自習を行い, 自ら試験に申し込みし受験する.	
・ まとめ		・ まとめ	
成績の算出方法	各種試験・検定に合格したものについて, 評定「A」を認定する（100%）		

授 業 科 目	特別学修（品質管理検定4級）		
開 設 学 科 学 系	機械工学科	区 分 ・ 単 位 数	特別学修選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	1～5 年 ・ 通 年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	品質管理、改善活動、企業活動の基本常識、仕事の進め方		
関 連 科 目			
担 当 教 員	板垣貴喜		
連絡先(オフィス・アワー)	itagaki@m.kisarazu.ac.jp（事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。）		
教 科 書	品質管理の演習問題と解答-QC検定試験4級対応、日本規格協会（編集・出版）(¥1,320 (税込)) ISBN：9784542503984		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プログラム目標			
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ 品質管理検定4級に合格する。 ・ 組織で仕事をするにあたって、品質管理の基本を含めて企業活動の基本常識を理解しており、企業等で行われている改善活動も言葉として理解できる。 ・ 社会人として最低限知っておいてほしい仕事の進め方や品質管理に関する用語の知識を有する。		品質管理検定4級に合格した者について、評定「A」を認定する（100%）。	
履 修 上 の 注 意	品質管理に関する用語を理解するだけでなく社会人に必要なマナーも問われるため、普段から興味を持ち、積極的に自学自習を心がける。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
およそ4月から11月にかけて、担当教員のもとで学習する。 ・ 品質管理の実践・手法		・ 品質管理 ・ 管理活動 ・ 改善 ・ 行程 ・ 検査 ・ 標準化	
成績の算出方法	品質管理検定4級の資格試験に合格した者について、評定「A」を認定する。		

授 業 科 目	特別学修（品質管理検定3級）		
開 設 学 科 学 系	機械工学科	区 分 ・ 単 位 数	特別学修選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	1～5年・通年	授 業 形 態	資格試験
キ ー ワ ー ド	品質管理、改善活動、企業活動の基本常識、仕事の進め方		
関 連 科 目			
担 当 教 員	板垣貴喜		
連絡先(オフィス・アワー)	itagaki@m.kisarazu.ac.jp（事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。）		
教 科 書	品質管理検定教科書 QC検定3級、仲野彰（編）、日本規格協会（¥2,750（税込）） ISBN：9784542503885		
補 助 教 科 書 等	品質管理の演習問題と解答[手法編]QC検定試験3級対応、久保田洋志（編）、日本規格協会（¥2,530（税込）） ISBN：9784542503977		
参 考 図 書	過去問題で学ぶQC検定3級、仁科健（監修）、日本規格協会（¥2,640（税込）） ISBN：9784542505230		
プログラム目標			
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
- 品質管理検定3級に合格する。 - QC7つ道具について、作り方・使い方を理解し、改善の進め方の支援・指導を受ければ、職場において発生する問題をQC的問題解決法により解決できる。 - 基本的な管理・改善活動を必要に応じて支援を受けながら実施できる。		品質管理検定3級に合格した者について、評定「A」を認定する（100%）。	
履 修 上 の 注 意	品質管理検定4級を受験し、合格していること。 品質管理の実践について知識として理解しているレベルかを問われるため、普段から興味を持ち、積極的に自学自習を心がける。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
およそ4月から11月にかけて、担当教員のもとで学習する。 ・ 品質管理の実践・手法		 ・ QC的ものの見方・考え方 ・ 品質の概念 ・ 管理の方法 ・ 品質保証 ・ 品質経営の要素	
成績の算出方法	品質管理検定3級の資格試験に合格した者について、評定「A」を認定する。		

授 業 科 目	特別学修（基礎原子力工学）		
開 設 学 科 学 系	全学科	区 分 ・ 単 位 数	必修・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学年全学科・通年	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	原子力（放射線, 放射線計測, 原子炉, 材料, 核分裂, 核融合）		
関 連 科 目	基礎科学, 物理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 応用物理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 応用物理学実験, 他各専門教科		
担 当 教 員	高谷 博史		
連絡先(オフィス・アワー)	takaya@n.kisarazu.ac.jp 事前にメールなどにより調整を行った上で質問に応じる。		
教 科 書	資料を配布		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プログラム目標			
達 成 目 標（合格点）		各達成目標の評価方法（評価の割合／重み）	
・ この講義は、高専機構原子力人材育成事業の一環で行われている授業である。講師は各高専の教員および大学や研究所の研究者などの外部講師である。内容は放射線の基礎、原子炉理論の基礎、放射線計測、安全工学、核燃料リサイクル等で、原子力・放射線に関しより深い理解を促すことを目標とする。		毎回講義後に提出する授業レポートの提出をもって評価する。	
履 修 上 の 注 意	将来、原子力関係に進む希望がある学生は受講することを勧める。希望者には実習も用意されている。また放射線に関する知識は、原子力関係だけでなく他の工業分野でも必要となるので、意欲を持って受講してほしい。 授業の進め方と授業内容・方法 DVDに収められた講義を視聴し、授業レポートを提出する。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	時間数
・ 第0回 ガイダンス		・ 講義内容等	2
・ 第1回 原子力関連の講演		・ 東京大学/IRID 鈴木俊一 先生	2
・ 第2回 原子力関連の講演		・ エネルギー経済研究所 村上朋子 先生	2
・ 第3回 原子力関連の講演		・ 京都大学 木村晃彦 先生	2
・ 第4回 放射線基礎		・ 東京都市大学 河原林順 先生	2
・ 第5回 放射線基礎 2		・ 高専教員	2
・ 第6回 放射線計測		・ 東京大学 高橋浩之 先生	2
・ 第7回 放射線計測 2		・ 高専教員	2
・ 第8回 原子炉の構成と物理		・ 東海大学 亀山高範 先生	2
・ 第9回 原子炉材料		・ 京都大学 木村晃彦 先生	2
・ 第10回 原子力とシステム安全		・ 長岡技科大 三上喜貴 先生	2
・ 第11回 核燃料サイクル		・ 東海大学 大江俊昭 先生	2
・ 第12回 放射線防護		・ 東京大学 飯本武志 先生	2
・ 第13回 放射線応用		・ 高専教員	2
・ 第14回 核融合		・ 核融合研究所 磯部光孝 先生	2
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	毎回の講義後に提出する授業レポートの提出（出席状況も含む）をもって評価(100%)する。		

授 業 科 目	特別学修（実践ドイツ語：Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ）		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・各1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学年全学科・全学期	授 業 形 態	特別活動
キ ー ワ ー ド	ドイツ語、ドイツ語圏文化、ドイツ語圏社会		
関 連 科 目	ドイツ語ⅠA・ⅠB／ドイツ語ⅡA・ⅡB／ドイツ語ⅢA・ⅢB、スタートドイツ語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語基礎統一試験(ZD)、ドイツ語技能検定（2級/3級/4級）		
担 当 教 員	柴田 育子		
連絡先(オフィス・アワー)	Microsoft Teams により連絡を行うこと。対応時間については個別に調整する。		
教 科 書	特に指定しない。書籍の紹介は行うので、自分で判断し選択すること。		
補 助 教 科 書 等	特に指定しない。書籍の紹介は行うので、自分で判断し選択すること。		
参 考 図 書	特に指定しない。書籍の紹介は行うので、自分で判断し選択すること。		
プログラム目標			
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
ドイツ語圏で日常生活を送る上で必要なドイツ語運用能力を身に付ける。とくに実践を通じて獲得したドイツ語表現を運用できる。		ドイツ語による面接試験を実施し、ドイツ語運用能力を確認する。(評価割合：40%)	
日・独語圏における文化・社会を比較考察した上で、ドイツ語圏の文化・社会の特徴・現状を日本語で説明できる。		帰国報告会における研修成果の口頭発表や、発表資料(PPT等のファイル)に基づき、実践による学びであるかどうかを確認する。(評価割合：30%)	
日独語圏における文化・社会を比較考察した上で、慣用句とドイツ文化・社会について説明できる。		和文1000字程度の報告書1編、独文800字程度の報告書1編の計2編に基づき、実践による学びであるかどうかを確認する。(評価割合：30%)	
履 修 上 の 注 意	・本校主催の海外研修による派遣事業への参加を前提とする。(30時間／1単位。複数のプログラムに参加した場合、実践ドイツ語Ⅱ・Ⅲの単位を取得できる。) ・ドイツ語検定4級および欧州共通言語参照枠A1試験合格を履修要件とする。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
事前学習		実践的に学びたい項目を主体的に調べておくこと。とくにドイツ語の実践的な表現をあらかじめ調べ、活用できるよう準備しておく。	
ドイツ語の実践的学習		ドイツ語を主とする生活の経験を通じて、ドイツ人が使う実際の表現を学ぶ。	
ドイツ語圏文化の学習		ドイツ語を主とする生活の経験を通じて、ドイツ人の生活や習慣に関する様々な事柄を実際に見聞・体験し、ドイツ人の考え方に触れ、日本文化と比較することでドイツ文化に関する理解を深める。	
ドイツ社会の学習		ドイツ語を主とする生活の経験を通じて、ドイツ人の政治経済や歴史に関する様々な事象の観察し、ドイツ人の平均的な考え方を知り、日本社会と比較することでドイツ社会に関する理解を深める。	
事後学習		研修期間中に経験したことを整理し報告書にまとめ、帰国報告会において口頭発表を行う。	
合計授業時間数(定期試験は除く)		30	
成績の算出方法	プログラム実施主体の発行する修了証(複写可)の提出を前提とし、面接試験・報告書2編・帰国報告会における口頭発表を評価し、成績を算出する。		